

「能登川地域共生社会づくりの集い」を実施

◆「2040年に向けて誰もが住み続けられるまちへ」顔の見える関係づくりの第一歩として福祉と医療が分野を超えて集まる機会を企画した。

<工夫した点>

- ・地域共生社会を目指すため76機関に案内を出した。
- ・広く活動を知ってもらうため新聞社にプレスリリースを行った。

<実績・結果>

- ・48事業所から80名が参加し、第1回目として多くの方に参加してもらえたことができた。
- ・滋賀報知新聞に活動を取り上げてもらうことができ、取組を住民に知ってもらえたことができた。



医師等	薬局	高齢	障害	行政等
5	6	26	6	5

◆「だれもが住み続けられるまち」になるための能登川地域の課題

- ・認知症高齢者への対応、行方不明事案の発生
- ・いくつになっても、役割・居場所・外出先が必要
- ・支援者側の顔の見える関係から、連携が図れる関係への移行



◆在宅支援の在り方について

- ・能登川地域で往診をしてくださる医師が増えたことにより在宅生活の延長が望める可能性が増えた。
- ・短期集中予防サービス（通所型サービスC）の活動により要介護状態への防止や元気寿命の延長に繋がる可能性が増えた。

【令和8年度の取組】

- ・「能登川地域共生社会づくりの集い」第2回目の開催
- ・認知症高齢者への対応を地域の方と共に考える。